

今月からチラシ
ではなく、紙面
でお届け！



地震時の死者ゼロを目指す減災まちづくり たいしんだより



国立大学法人
名古屋工業大学
高度防災工学研究センター

客員教授
かわばた ひろふみ
川端 寛文

こんにちは、名古屋工業大学高度防災工学研究センター客員教授の川端です。今月から、広報紙の紙面で「たいしんだより」をお届けすることになりました。

昨年、5月20日に木造住宅の安価な耐震改修の勉強会を開催してから、松前町ではいろいろな展開がありました。まず、耐震改修に関わる建築士が精密診断による耐震改修について勉強し、今

年の4月から、松前町全体が、より安価で合理的な精密診断による耐震改修設計になったこと。次に、伊予高生との交流が始まり、私が講習をした、ストローハウスなどによる子どもへの耐震教育について、実際に高校生が講師となり、小学生に対して実施されたこと。この2点が特に印象的です。

建築士の取り組みは、全国的に見ても最先的な取り組みで、全ての耐震改修設計を精密診断で設計するというのが、需要者の安心につながると思います。伊予高生の取り組みも、全国的にも例がなく、高校生が小学生に影響を与えることで、高校生も小学生も成長したのではないかと思います。

今後もさらに素晴らしい展開を期待して、松前町に通いたいと思います。

たいしんコラム「大工さん目線」



鶴吉で工務店をしている町建こと町田です。たいしんだよりのコラムリレーが回ってきましたので、微力ながらコラムを書いてリレーをつなぎたいと思います。

私は、以前から松前町を中心に大工仕事をしていましたが、初めて耐震化の工事をしたのは平成28年、熊本地震がきっかけでした。それから令和3年度末までに32軒の耐震工事を行い、これは愛媛県内で耐震工事をしたことのある業者、253社

の中で7番目に多く、ちょっとした自慢です。改修工事は新築と違い、開けてビックリなこともあります。同時にやりがいもある仕事です。

また今年の9月に伊予高生向けに耐震工事体験会を行い、名古屋工業大学の川端先生と一緒に講師をさせていただきました。現在は大工を目指す若者も少なく、大工という職業は売り手市場になっています。これからの時代にしっかり稼ぐことも可能なので、若者にはぜひとも大工を目指してほしいと思います。

地震に強い家を作る大工は、町の防災にも一役買っています。今後も地元松前町が地震(災害)に強い町になることを願い、協力していきたいと思っています。